



がんばろう能登

学生の能登復興ボランティアの取組

2025年度理事会・懇親会 開催報告
富山県支部活動報告
令和7年度 春の叙勲
2025年度「市民講座」(9月以降)のご案内

活躍する同窓生

山口 佳南さん(人間科学部スポーツ学科11期生)
山本 正樹さん(経済学部48期生)
河本 颯馬さん(経営学科51期生)

秋の交流祭のご案内
きずなコネクト開設



がんばろう能登



2024年1月1日の「令和6年能登半島地震」から1年半が経ちました。金沢星稜大学では復興に関する様々な事業およびその支援にむけて、各種活動に取り組んでいます。今号ではその取り組みの一部を紹介いたします。

緑のカーテンプロジェクト

経済学科、スポーツ学科、こども学科の学生有志が、能登町および穴水町の仮設住宅で行われた「緑のカーテンプロジェクト2025」に参加しました。このイベントは、NPO法人緑のカーテン応援団が主催しており、真夏の暑さ対策、景観美化、プライバシー確保のために緑のカーテンを仮設住宅に設置することを目的に開催されたものです。学生は、仮設住宅の窓にネットを張り、プランターにゴーヤの苗の植え付けを行いました。各部屋への設置を終えると、ゴーヤの栽培方法について住民の方一人ひとりに説明をしました。



参加した3日間で能登町2か所、穴水町4か所の仮設住宅に緑のカーテンを設置しました。

仮設住宅に住まれている方との交流や被災地の現場を見ることで震災復興の現状を知ることができました。

こども学科の学生が「わいわいサロン」に参加

人間科学部こども学科有志の学生が、金沢市中央公民館彦三館の会議室で行われた、「わいわいサロン」に参加しました。このイベントは、令和6年能登半島地震による精神的な負担や、避難してきた金沢市での一人暮らしのストレスを抱える高齢者に対して、精神的な癒しとリラックス効果の提供、他者との交流機会の創出、生活意欲の向上を目的に開催されたものです。

歌を歌いながら体操をしたり、お互いの自己紹介では、「父親の名前から一文字もらった」「明るい未来のために」「繁栄するようにとつけられたが、名前が重く感じる」など、自分の名前の由来について紹介しあいながら、高齢者とのコミュニケーションを生む工夫をはらせていきました。

防災クッキングでは、アルファ米、ビニール袋で炊くごはん、インスタントカレー、缶詰など、学生が買い物をして持ち寄り、試食。「避難所で食べたアルファ米を思い出した。普段温かいご飯が食べられることを幸せに感じた」「学生さんの優しさを感じた」などといった声が寄せられました。



輪島市門前町アンケート調査ボランティア



門前町は比較的山間の奥まった地域に位置しており、その名称は曹洞宗の大本山總持寺の「門前」、すなわち「門の前」にあることに由来しています。村は總持寺への参拝客に経済的に依存していた部分もあり、今回の地震とその後の影響は経済面でも大きな打撃となりました。

現在、總持寺では一部で再び拝観が可能となっており、令和7年6月8日に開催された市民まつりは、村の復興のきっかけとなる行事となりました。そこで、「輪島市民まつり門前町アンケート調査団体」はボランティアとして現地を訪れ、まつりの参加者や来訪者を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の目的は、門前町観光協会、門前町商工会、輪島市教育委員会文化課など、地域の団体に対して来訪者や参加者の背景や意見、ニーズに関する情報を提供することです。

アンケートデータの集計は未完了ですが、暫定的な結果として、調査対象となった多くの方が門前町の住民で、中には復興活動を担当されている外部の方々も見受けられました。

回答には高齢者はもとより、若い世代向けの文化イベントが地域で開催されることを望む声も多く、学校やクラブ活動などを通じて、地域が若者にとってより魅力的な場所になることを期待する意見も多く寄せられました。





出張パパママ銭湯開催

3月15日(土)、能登半島地震復興を主とした星稜ボランティアの一環で、「出張パパママ銭湯」を和倉温泉総湯で開催しました。「パパママ銭湯」とは金沢市と石川県公衆浴場業生活衛生同業組合、人間科学部子ども学科の学生たちが協同で実施している入浴支援企画です。

保育士志望の学生がお子様の着替えのサポートや臨時託児所を開設しお世話をする事で、未就学児を持つパパやママにゆっくりお風呂に入ってもらふ事を目的としたサービスです。

学生たちはあらかじめ七尾市内にある15の幼保施設を巡り、親御さんへの宣伝告知を開始。その成果からか、当日は家族30世帯(親40名、子ども65名)が来館し、大賑わいとなり、和倉温泉の復興も兼ねた身も心も温まるイベントになりました。



大谷鯉のぼり



大学・短大部の2年生を対象に、今年度初の「ソレイユプロジェクト」を実施しました。

珠洲市大谷地区製塩関係者から寄せられた「珠洲の今を知ってほしい」という声から、2年ぶりに開催される「大谷川鯉のぼりフェスティバル」の運営ボランティアとして地元の方々と交流しました。

震災と豪雨で水害に遭った揚げ浜式製塩の「大谷塩の普及」をテーマに、大谷塩の魅力が伝わる試食品(レンコンチップス、五郎島金時さつまいもチップス、塩レモンサイダー、塩キャラメルなど)を手作りで作成し、フェスティバルの来場者に無料で振る舞いました。当日の大谷塩の売上は100袋を越え、観光客や地元の方々に珠洲で産まれた塩を「味覚」を通じて知ってもらふ取り組みになりました。

また、子ども達との交流として、「子ども縁日」の出店や「星稜こいのぼり」を制作するなど、珠洲に元気を届けることができた1日となりました。

能登まるごと味覚まつり

のと里山空港で開催された「能登まるごと味覚まつり」に、神崎ゼミナールの学生が参加しました。このイベントは、能登地域の食や文化の魅力を発信し、震災後の復興を支援することを目的に開催されたものです。

金沢星稜大学は空港出発ロビー階にて活動を行いました。

神崎ゼミは、「おひなさまパフェ」の提供を行いました。協力企業のフードロス削減事業の一環として、製造工程で発生する未利用チョコレートを活用した「おひなさまパフェ」を提供。来場者にパフェづくりを体験していただくとともに、フードロスに対する理解を広めました。同じ会場でソレイユプロジェクトも、「子ども縁日」をおこない多くの子どもたちと一緒にゲームを楽しみながら交流を深めました。

当日は350人を超える方々にブースを訪れていただき、地域の皆さまと直接ふれあう貴重な機会となりました。学生たちにとっても、能登の現状や復興への思いに触れる有意義な一日となりました。



ソレイユプロジェクト

ソレイユプロジェクトとは、学生時代に挑戦・企画・実践して成長することを目的として、今年発案されたプロジェクトです。「ソレイユ」とはフランス語で「太陽」という意味です。

仲間と協同することで働き方の実践意識を高め、太陽のような光り輝く人間力を培います。

2025年度 理事会・懇親会が開催されました

日時／2025年6月28日(土) 17時～
場所／ホテル金沢

理事会では、次の議案について審議・承認されました。

《議案》

- 1、2024年度事業報告・決算報告
- 2、2024年度監査報告
- 3、2025年度事業（案）・新規事業説明・事業予算（案）
- 4、2024/2025年度新常任理事・新理事（案）



理事会終了後、懇親会が開催されました。

上野会長のあいさつの後、来賓あいさつとして、樫見新理事長、大久保学長からお言葉を頂戴しました。

小嶋同窓会相談役の乾杯の御発声を合図に、大学の先生方や同窓生との親睦が深まり、なごやかな懇親会となりました。



富山県支部活動報告

2024年11月16日(土) 富山県射水市松原屋において、富山県支部総会関連事業会・懇親会を開催しました。今年の講演は人間科学部 笠原 亜希子先生とゼミ生5人の研究成果発表を行いました。

笠原先生からは近年の競技スポーツに対する考え方としてe-スポーツ、チェス、将棋といった勝負を決めるものまでスポーツの分類になる(遊びが全てスポーツ??)といった時代の考えかたも変わってきた等のお話がありました。

ゼミ生からはSPJスポーツ政策学生会議での活動報告、パリオリンピック・パラリンピック開催期間中の新聞記事、石川県内で発行されている新聞社の記事を分析、能登半島地震復興に関わる記事とオリンピック・パラリンピックとの報道量、分析をゼミ生なりに結果発表を行いました。

講演会のあと懇親会を行いました。

懇親会の締めは高橋 賢治さん(一部1回生)の一丁締めで終了しました。



令和7年度 春の叙勲

この度金沢経済大学第1期卒業の高橋賢治氏が長年地方自治発展に尽力された功績に対して国より旭日双光章を受章されました。受章おめでとうございます。



2025年度「市民講座」(9月以降)のご案内

金沢星稜大学では地域に開かれた大学として、教育と研究の成果を地域社会に還元するために公開講座等を通して地域の皆様に対し、広く学びの場を提供しています。

その活動の一つが「市民講座」で、年間を通して本学教員が身近な事例や最新の情報などを取り上げてお話しします。

[受講料無料] ※希望する講座をHPの各講座の申込フォームよりお申し込み下さい。

- 会場：金沢星稜大学 本館 A51 講義室他
- 時間：13:30～15:00
- 日程

各講座開催日の3日前をお申込みの締切とさせていただきます。

詳しくはこちらから



会場、オンラインどちらでの参加も可能です。開催について変更が生じた場合はホームページでお知らせします。

第5回	9月 20日(土)	2025 朝鮮半島情勢と日本	講師：菊池 嘉晃 教授
第6回	10月 11日(土)	ビジネスアイデアとは何か?組み合わせから考える事業課題解決思考方法	講師：村上 統朗 教授
第7回	11月 29日(土)	廃棄物の「移動」にご注意を!—日本の現代史をひも解いて—	講師：鈴木 理彦 准教授
第8回	12月 13日(土)	朝ごはんから考える国際物流—海賊が脅かす私たちの日常生活—	講師：辰巳 佳彦 助教
第9回	1月 10日(土)	「正しい見方」できていますか?—そもそも「正しい」とは?—	講師：柳川 公三子 講師

※駐車場台数に限りがございます。

【お問い合わせ】金沢星稜大学総合研究所 〒920-8620 金沢市御所町丑10番地1 TEL 076-253-3984 FAX 076-253-3998 E-mail seiryo-research@seiryo-u.ac.jp (HPより)

すべての経験は未来につながっている

山口 佳南 人間科学部スポーツ学科 11 期生

世界三大ミスコンテストの中で最も歴史のあるミス・ワールド。山口さんは2022年に7,107人の中から品格や知性、タレント性、美しさなどを競う審査会を経て、見事ミス・ワールド日本代表に選ばれました。ミス・ワールドに挑戦した思いから世界大会のことなどをうかがいました。

自分と向き合うことで自信を持てた

—ミス・ワールドに出場しようと思ったきっかけは？

実は2020年の準ミス・ワールドに選ばれ、2度目の挑戦でした。大学4年の時にずっと目指していた教員の採用試験とミス・ワールドの地区大会決勝が同じ日に重なってしまい、自分にしかできないことは何か、未来にワクワクするのはどちらかなど悩み抜いた末、ミス・ワールドの道を選びました。もともと小学1年からハンドボールをしてきたスポーツ女子だったので、正直、外見だけで評価されるミスコンには抵抗がありました。それでも、ミス・ワールドは女性の尊厳の向上を理念に掲げ、「Beauty With a Purpose: 目的のある美」をスローガンとし、外見だけでなく、知性や個性なども選考基準としていることに魅力を感じました。ただ、準ミス・ワールドとなって、改めて自分は自己肯定感が低く、世界に行く自信がなかったことに気づかされました。

これまでスポーツと子ども、教育を自分のテーマにして生きてきたのに、「世界の舞台に立たなき子どもたちに何も伝えられない。挑戦した先にはしか見えない景色がきっとあるはず。そして挑戦した人だからこそ得られる可能性がある」と思い、ミス・ワールドに再びチャレンジすることに。まず、他人と比較するのではなく、じっくり自分と向き合って、自分の好きなところや誰のために社会活動をしたいのかなど自問自答し、自分を受け入れることから始め、おかげで2回目は自信を持って挑めました。

—ミス・ワールド2022日本代表に選ばれたものの、コロナ禍で世界大会が1年延期されたんですね。

世界大会が中止になるかもしれないという中で、トレーニングやレッスンに励み、プレゼンなどの準備をすることは、想像以上に辛く、ずっと光が見えない長い洞窟にいるような感じで



(やまぐち・かな)1998年4月生まれ。父や祖父の影響で小1からハンドボールを始め、富山県立福岡高校では3年時に陸上・やり投げで北信越大会出場。金沢星稜大学では1年春からハンドボール部の主力として活躍し、3年秋から主将を務め、全日本学生選手権にも出場。小中高の教員免許取得。2020年ミス・ワールド日本大会で準グランプリとなり、2022年にミス・ワールド日本代表に輝く。160センチ。重機の免許も持ち、災害復興支援の現場をサポートすることも。

した。ようやくインドで世界大会の開催が決まり、お正月に帰省していた時に氷見市の実家で被災することに。幸い家族も無事でしたが、家やまちも被害を受けて大変なのに、自分のことを気にかけて心配してくれる家族や地域の人たちに逆に励まされました。東京に戻ってから何かできることを考え、氷見の魚や能登の食材を取り寄せ、お弁当を販売し、売上を復興支援のために寄付させていただきました。

世界大会で自分の進む道が明確に

—初めての世界の舞台はいかがでしたか。

審査では、スポーツや英語、プレゼン能力はもちろん、一人の女性として社会にどういった影響力を与えられるのかといったことまで毎日チェックされます。しかも1カ月間、約130カ国と地域のミスと共同生活をしながら審査されるので、睡眠も4時間ほどとかなりハードでした。それでもここで自分の価値観が大きく変わりました。飲み水を確保するのが大変だったり、インフラが整備されてなくて、通学するにも命の危険があったりと他国のミスの話を聞くと、「日本がいかに平和で恵まれている国なんだ」と実感させられました。と同時に、これから自分がやるべきことや自分のやりたいことを再認識させられる場ともなりました。

—現在、モデルやタレント、MC、商品のブランディングなど幅広い活躍をされていますね。

あくまでもスポーツと子ども、教育を軸としながら、スポーツを通じて豊かな生き方ができる社会の実現に向けていろいろな活動に取り組んでいきたいと思っています。振り返ってみて言えることは、すべての経験は未来につながっています。これからもゼロからイチを作ることをワクワクしながら楽しんでいきたいです。

地味でも企業の信頼に直結する仕事



デロイトトーマツ監査法人
公認会計士

山本 正樹

経済学部 48 期生

—大学卒業後、どんな仕事をされていますか。

大学卒業後は早稲田大学院(会計研究科)に進学し、修了後に㈱日本M&Aセンターに新卒入社しました。そこで約4年間、中堅・中小企業の事業承継やM&Aアドバイザー業務に従事していました。M&Aの世界はスピード感がありつつも、経営者の人生に深く関わる仕事でとても楽しい仕事でした。しか

し、魅力的なトップ営業マンの先輩方と比較すると「彼らにこのままで勝てるのか」と自問するようになり、改めて公認会計士の道へ挑戦する決意を固め、退職することに。

現在はデロイトトーマツ監査法人で公認会計士の準会員として働いています。大手企業の会計監査に携わる日々で、業務のスケール感と中小企業のM&Aとはまた違った仕事で毎日学びが多いです。

—公認会計士を志望した理由やきっかけを教えてください。

最初のきっかけは商業高校の簿記の授業でした。数学が得意だったこともあり、日商簿記2級まではすんなり合格することができました。自然と「簿記でキャリアを築いていきたい」と考えようになり、金沢星稜大学の税理士コース(CDP)に進学を決めました。

大学卒業後、早稲田大学院に進み、公認会計士試験に挑戦していたのですが、一度は撤退しています。それでも社会人として働く中で「上位層にこのままで勝てるのか」という思いが強くなり、再び挑戦を決めました。過去の失敗経験があったからこそ、今こうして会計士としてのスタートラインに立てていることに、深い意味を感じています。

—現在の仕事でどんなところにやりがいや魅力を感じていますか。

会計士の仕事は地味です(笑)。社会に必要不可欠なインフラであり、企業が発信する財務情報を第三者の立場(公認会計士・監査法人)でチェックし、投資家が安心して判断できるようにするのが監査であり、まさにその根幹となります。皆さんの年金やNISAなども、公認会計士のチェックを経て、証券市

場で株式銘柄として運用されています。

間違いや虚偽表示がないか何度も資料を確認することが企業の信頼に直結する重要な業務です。それだけに地味でもやりがい大きい仕事です。

星稜の4年間で今の自分を形成している

—大学時代を振り返り、思い出に残っていることはありますか。

大学2年時に挑戦したバイクでの日本一周の旅です。知らない土地を一人で走り抜けながら、自分自身と深く向き合う時間を持てたことは、今振り返ってもかけがえのない経験でした。思い通りにいかない日も多くありましたが、その分、一期一会の出会いやトラブル、そして日本の美しい風景が自分の成長につながり、心を強くしてくれました。

特に、富士山を目にした時「日本最高峰」に感動して自分もトップを目指し、税理士試験から公認会計士試験へ目標を切り替えることを決心しました。この旅が、人生の大きな転機になったことは間違いありません。

また、大学時代にお世話になった大貫一先生との出会いもあります。早稲田の大学院を勧めてくれたのも大貫先生でした。星稜での4年間は、勉強以上に“人との出会い”が、自分を形づくってくれたように感じています。

—最後にこれからの目標や夢を教えてください。

将来、北陸に戻って、自分の経験やスキルを地元で還元できる事業を立ち上げたいと思っています。一番意識しているのは、北陸での雇用の創出です。私が事業を立ち上げ、母校の後輩たちを採用し、その会社で成長して欲しいです。これまでM&Aや監査で得た知見を活かし、若い人たちが挑戦できる環境をつくり、地域の発展に貢献したいと思っています。ただ、焦らず、でも着実に、一歩ずつ前に進んでいきたいです。



休日はハーレーでツーリングしてリフレッシュ

人の成長をダイレクトに感じられる



石川県立能登高等学校
教諭

河本 颯馬

経営学科 51 期生

—大学卒業後、どんな仕事をされていますか。

石川県で高校の教員をしています。

—教員を志望した理由やきっかけを教えてください。

野球が好きで小学校から高校までプレーしていましたが、最後の試合となった高校3年の夏の大会で石川県初の完全試合を喫し、とても悔しい経験をしました。その時に「指導

者(教員)として高校野球に携わって無念を晴らしたい」と思い、教員を志望することに。

あと、自分自身、中学まであまり勉強が得意ではなく、成績も下から数えた方が早かったのですが、高校で先生方に恵まれ、商業の勉強の楽しさや大切さを教えていただき、地元の石川県で教員になりたいと思うようになりました。

—現在の仕事でどんなところにやりがいや魅力を感じていますか。

教員は大変でブラックという印象が特に若い人に多くあり、以前に比べて成り手が減っています。しかし、人の成長をダイレクトに感じられる、やりがいと魅力のある仕事です。

勉強面では、できなかったところを根気強く教え、できるようになった時の生徒の表情や達成感を見た時にとてもやりがいを感じます。また、生徒が苦手や困難なことに立ち向かっている時にサポートを求められて一緒に克服し、感謝された時に教員をしていてよかったと思います。同じ仕事内容が毎日続く訳ではなく、もちろん大変なことも多いですが、生徒の成長や変化を間近に感じることができ、臨機応変に対応する力などがいろいろな場面で求められるので自分自身の成長にもつながっています。

—現在、能登で教員をされているそうですが、震災の影響はいかがですか。

能登半島地震があったあの日、地元の能登に帰省していました。一瞬にして変わってしまった街をみて絶望感にさいなまれました。避難所で数日過ごし、その後、当時勤務していた加賀の方で生活を続けていました。しかし、家族や知り合いが能

登で生活をしており、自分だけ不自由のない生活を送っていてよいものかと悶々とした日々を過ごしていました。今年4月から地元の能登に異動となり、最初は地震による生徒たちの精神面の影響などが心配でした。しかし、多くの生徒は「地震を経験したからこそ成長できた」「あの地震があったからこの能登で勉強、生活をしたい」とたくましく、学校には能登以外の出身者も多く通っています。生徒たちが前を向いているので、私も元気や勇気もらっています。

ゼミと生徒会の経験が今に生きる

—大学時代を振り返り、思い出に残っていることや今の仕事で役立っていることはありますか。

大学3、4年次に学んだ岸本秀一ゼミでの活動が印象に残っています。ちょうどコロナ禍と重なり以前と同じような活動はできませんでしたが、企業の方と一緒にプロジェクトを行い、プレゼンを何度かさせていただきました。実際の企業の方と関わることで、知識のインプットだけでなくアウトプットを間近で体験できました。その時に感じたことや経験が今、教員として授業をする際にとても活かされています。

大学時代、いろいろな人の協力を得ながら新入生歓迎会や運動会などを企画運営していく中で、準備の大切さとたくさんの達成感を味わうことができました。この経験も生徒と教員と一緒に進めていく学校行事で役立っています。

—最後にこれからの目標や夢を教えてください。

地震からの復興はまだ道半ばですが、それでも能登は負けたくないと思っています。この地震を経験したけど、「能登が好き、能登に残って地元のために働き、生活したい」という生徒を一人でも多くして、「チーム能登」として一丸となって地震以前よりも能登を元気な街にしたいです。



金沢星稜大学同窓会PRESENTS

秋の交流祭スペシャル

JAZZ Night

日時 10月25日(土) 18:00受付開始 18:30開演

場所 ホテル金沢 5Fアプローチ

会費 5,000円(料理+飲み放題付特別価格)

この度、同窓会では2019年以来6年ぶりとなる会員交流祭を開催いたします。今回は「秋の交流祭スペシャル」と題し、卒業生によるジャズバンドwith中本美智子を迎え、豪華でおしゃれな雰囲気秋の夜長を楽しみたいと思います。豪華景品の抽選会も用意しています。



同窓会員ならどなたでもOK、お一人参加でもOK、同窓生同志で特別なひとときを過ごしませんか。歓談時間も十分ありますので新しい出会いや、旧友との再会もあるかもしれません。ぜひ学生時代の友人を誘ってのご参加、お待ちしております。
※定員を超えた場合は先着順になります。

参加申し込み方法 いずれかの方法で申込下さい。

①きずなコネクトから申込

会員登録後
→イベント案内→問い合わせフォームより入力 [送信](#)
※会員登録済の方はログインしてお進み下さい。



②同窓会HPからメールで申込

住所変更・お問合せページより必要項目を入力 [送信](#)
※用件の欄はお問い合わせを選択してコメント・備考欄に
10月25日イベント参加 と入力願います。



③同窓会事務局までFAXで申込 FAX076-251-9876

FAXでのお申込みは別途申込書を送付しますので、下記お問い合わせ先までご連絡下さい。

※会費は当日受付で入場チケットと引き換えに徴収します。
※ご記入いただいた情報は当会からの連絡・情報提供に限り使用することがあります。



中本美智子プロフィール

Jazz Vocal 石川県金沢市出身。幼少より児童劇団に所属し演劇活動始める。米国ロサンゼルスTheatre of Artsに留学しマイズナーメソッドで演劇を学ぶ。ロサンゼルス、台湾でモデル、舞台女優として活動後、2010年に帰国し音楽活動始める。様々なミュージシャンとの共演を経て、現在は北陸、関東、関西、東海地方など全国に活躍の場を広げ、ホテル、ライブハウス、イベント等に多数出演。MROラジオ『中本美智子のMy Favorite Songs』のパーソナリティー。

お問い合わせ先 金沢星稜大学事業委員会 TEL076-251-9876 (受付 月・水・金10:00~16:00)

デジタルでつながる

きずなコネクト

開設

金沢星稜大学同窓会

同窓会から卒業生のための
各種イベント・ご案内をお送りしています。

ご登録はこちらから